修士論文

重耳・子犯・子余説話の成立と展開
－『春秋左氏伝』、『国語』、清華大学蔵戦国竹簡『子犯子餘』との比較から考える『史記』の性格－

岩手大学大学院　総合科学研究科　総合文化学専攻
地域文化リノベーションプログラム
稗貫　華子

1.　研究目的

本論文では、伝世文献である『史記』、『国語』、『春秋左氏伝』の三書に、新しい発見を期待して 紀元前３００年から紀元前２５０年頃のものとされる清華大学蔵戦国竹簡『子犯子餘』を加えた４つの資料を比較し、重耳・子犯・子餘説話の成立・展開と、そこから見える『史記』の性格について考察することを目的とする。

先行研究から『史記』の性格について、以下の３点を予想する。

① 編纂者とされている司馬遷により、先行する諸資料を参考にして出来事に矛盾がないよう、情報が取捨選択され記述されている。
② 編纂者とされている司馬遷自身が置かれた立場や、司馬遷が『史記』編纂で達成しようとしている目的により、情報の取捨選択が独自の目線から行われている。
③ 正当な通史という立場を取りながらも、それまでの単なる歴史的資料とは異なる、エモーショナルな面を持つ「文学」としての性格を持つ。

2.　研究方法

『春秋左氏伝』、『国語』、清華大学蔵戦国竹簡『子犯子餘』との比較から『史記』の性格を明らかにするため、本論文は以下の手順で研究を進めた。

① 『史記』、『春秋左氏伝』、『国語』に見られる重耳・子犯・子余説話の抽出と内容ごとの整理
② 『史記』、『春秋左氏伝』、『国語』に見られる重耳・子犯・子余説話の比較
③ 『史記』、『春秋左氏伝』、『国語』に見られる重耳・子犯・子余説話の比較から見える『史記』の記述の特徴の検討
④ 清華大学蔵戦国竹簡『子犯子餘』の解釈
⑤ 『史記』、『春秋左氏伝』、『国語』と清華大学蔵戦国竹簡『子犯子餘』の比較
⑥ 『史記』、『春秋左氏伝』、『国語』と清華大学蔵戦国竹簡『子犯子餘』の比較から見える『史記』の記述の特徴の検討
⑦ 『史記』の特徴から考えられる『史記』の持つ性格の検討

3.　結果

『史記』『春秋左氏伝』『国語』に見られる重耳・子犯・子余説話の比較と検討から、『史記』

の性格として以下の６点が明らかになった。

・　『史記』は、重耳という人物の行動や感情をより詳細に記そうとしている。
・　『史記』は、晋国の動向をより詳細に記そうとしている。
・　『史記』は、時期や期間を積極的に記そうとしている。
・　『史記』は、物事をより簡潔に記そうとしている。
・　『史記』は、重耳を尊重する態度を取ろうとしている。
・　『史記』は、子犯の評価を下げる態度を取ろうとしている。

『史記』『春秋左氏伝』『国語』と 清華大学蔵戦国竹簡『子犯子餘』との比較と検討からは、『史記』の性格として、以下の１点が明らかになった。

・　『史記』は、記述する期間（年数）について、慎重な態度をとっている。

また、清華大学蔵戦国竹簡『子犯子餘』には子犯と子余に対する評価に差が見られないことから、子犯と子余の評価に差があるのは、『史記』『春秋左氏伝』『国語』に見られる特徴であり、『史記』『春秋左氏伝』『国語』の成立過程やその背景から生じた性格であることが推測できると考えた。

4.　結論

本研究において明らかにすることができた『史記』の性格は以下の７点とした。

①　『史記』は、重耳という人物の行動や感情をより詳細に記そうとしている。
②　『史記』は、晋国の動向をより詳細に記そうとしている。
③　『史記』は、時期や期間を積極的に記そうとしている。
④　『史記』は、物事をより簡潔に記そうとしている。
⑤　『史記』は、重耳を尊重する態度を取ろうとしている。
⑥　『史記』は、子犯の評価を下げる態度を取ろうとしている。
⑦　『史記』は、記述する期間（年数）について、慎重な態度をとっている。

『史記』が、戦国中期の成立の清華大学蔵戦国竹簡『子犯子餘』や『春秋左氏伝』・『国語』と比較して子犯の評価を下げているという⑥については新しい発見であると考えられ、晋について同情的である『春秋左氏伝』、『国語』に対し、晋に中立的であった『史記』の特徴を明らかにするものである。また、前漢末の劉歆による偽作が強く主張され文獻としての成立問題がある『春秋左氏伝』、『国語』が戦国期の晋に関する伝承を含むことも傍証することができた。

以上を本研究の成果としたい。